

独立・非同盟・平和・民主・公正の国際秩序を目指す岐阜県の会機関誌

アジア・アフリカ・ラテンアメリカ 岐阜県地方版

発行日 2008年5月2日発行 第24号

発行所 〒504-0825 岐阜県各務原市蘇原柿沢町2-47 岐阜県アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

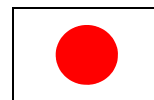
## 韓国歴史と平和と友好の旅 報告特集

### 三菱重工朝鮮女子勤労挺身隊訴訟支援会済州道支部編

高橋信さんと行く「3・20韓国歴史と平和と友好の旅4日間」の今回の旅行報告は、済州島での初日です。連載は2回で終了する予定でしたが、内容が充実していただけに書き始めたら長文となり、今回は、2日目の午後のみ報告いたします。



#### 済州市庁表敬訪問



3月21日（金）、ソウルを飛び立った大韓航空国内線は、1時間程で済州島に到着、眼下に広がる済州島の風景に、機内から歓声があがります。済州島独特の強風にあおられてか、着陸はバウンドして、一同冷や汗をかきました。

荷物を受け取って到着ロビーに出ると、三菱重工朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会の許重雄（ホジュンウン）さんや張英愛（チャンヨンエ）さん初めたくさんの方々に横断幕で歓迎を受けました。空港前でさっそく記念写真を撮り、バスに乗り込みました。

バスの中で、海苔巻きが配られ、ソウル空港へ行く途中食べた昼食の続きで腹いっぱいとなりました。夕方の予定だった済州市への表敬訪問が、急遽最初の予定となり、私たちのバスは、まず、済州市庁舎へ到着しました。

会場では、一同緊張した面持ちで着席し、張さんの通訳で、交流会が始まりました。まず、都合が悪く出席できなかった市長に変わって、呉仁澤（オ・インテック）副市長が歓迎の挨拶をされました。日本のたくさんの人たちが三菱重工朝鮮女子勤労挺身隊の訴訟を支援していることに感激され、感謝の意を述べられました。次に16回目の済州島訪問になるという高橋さんが、運動発展への決意を表明、日本での裁判闘争の経過報告を行い、支援者リストをおみやげとして手渡しました。そして、稲垣団長が、岐阜県 AALA が非武装・非同盟・中立を目指す平和団体であることを紹介し、歓迎を受けたことを光栄であると感謝を述べ、椋木が AALA は、労働組合や民主団体の団結を基礎に国際連帯運動をする団体で、ここに参加している岐阜



済州空港にて（撮影：石川凡朗さん）



呉副市長（最前列右から3人目）や許重雄さん（同5人目）らと共に

済州市庁にて（撮影：石川凡朗さん）



## 4・3平和公園

4・3事件とは、第二次世界大戦終戦間もない1948年、南北統一国家を目指す済州島の左派勢力と南朝鮮単独選挙を強行しようとする右派勢力の対立の中、選挙を拒否する多数派の左派勢力の一部が武装蜂起し、米軍の支援を受けた警察や半島から渡ってきた右翼青年と対立が激化し、流血事件も発生します。その後、平和解決への努力もされますが、最後には決裂し、武装した左派勢力の一部は、山間部に身を隠して、ゲリラ戦を展開します。米軍の支援を受けた治安部隊、警察、右翼青年たちは、左派武装勢力はもとより、単独選挙に反対した人々、疑われた関係ない村人も含めて徹底的に弾圧し、島内各地で虐殺も行われました。殺戮が終結したのは、1957年で、この間の犠牲者は8名万人に及ぶとの説（ウィキペディア）もあります。

反共色の強い韓国にあって、この事件の詳細が明るみに出たのは今世紀に入ってからで、2003年に盧武鉉大統領が島民に謝罪し、真相の徹底究明を約束しました。そして、組織されたのが、済州四・三事件真相糾明及び犠牲者名誉回復委員会で、その調査資料を基に建設されたのが、今回、私たちが訪問した4・3平和公園だそうです。

広大な敷地の公園の中に出来たばかりの美しい追悼施設がありました。施設の中には、村ごと、犠牲になった人々の名前が刻まれており、膨大な犠牲者が名前が、壁面いっぱい刻まれました。この施設が把握している四・三事件の犠牲者は、2万6千人とのことでした。犠牲者の中には、今回の済州島訪問で、私たちがお世話になった許さんの父親の名前も刻まれており、許さんが平和運動に力を注ぐことの原点もここにあるようでした。私たちが、説明を聞いているうちに許さんの関係者が花を買ってきてくれて、私たちは、追悼施設の前で、一人一人生花をささげて、犠牲者の冥福を祈りました。



4・3平和公園の追悼施設内部

（撮影：小林宏子さん）

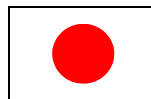
公園内には、スポーツ競技場のような形をした、資料館も完成しているとのことでしたが、開館は、2週間後の4月3日の4・3事件60周年記念行事で披露される予定だそうです。今回は見学できなくて残念でした。ち



なみに、高橋先生は、今回の帰国後、折り返し、済州島を訪問し、4・3事件60周年記念行事に出席されたそうです。また、帰国後の4月26日(土)の反省・報告会の中で、4・3事件の詳細を報道するNHKのETV特集4月27日(日)22:00～23:00教育テレビでの放映をご案内いただき、この事件への理解は、いっそう深まりました。



## 朝天抗日記念館



展示館入り口ホールの運動の象徴モニュメント  
(撮影：小林宏子さん)

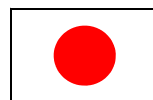
次に訪問したのが、ソウルの3・1独立運動に参加した済州島出身のキム・ジャンファンがこの地で独立万歳運動を展開した場所に立てられた済州抗日記念館(朝天抗日記念館)です。

最初に見学した展示館には、3・1独立運動以前では最大とされる宗教者を中心とした法井寺抗日運動、先の朝天万歳運動、女性集団としては最大の海女組合による海女抗日運動や日本軍による弾圧シーンなどが、ジオラマを使って説明してあり、韓国・北朝鮮の人々が日本帝国主義と闘って独立を勝ち取った歴史の中には、非抑圧者である、愛国青年、女性労働者、宗教者などが先頭にたち、各地でさまざまな市民階層が立ち上がって闘争を展開していった

歴史が目に見えるように展示されてました。展示館の後は、広い敷地内にある犠牲者の位牌を安置した彰烈祠を参拝し、3・1独立記念塔で記念写真をとり、済州島の抗日記念館を後にしました。



## 夕食交流懇談会



特2等のロイヤルホテル(後に分かったことですが、このホテルの女性社長さんは、許さんの知り合いで今回運動の前進のため、特別料金にしてくれたそうです。)にチェックインして、今夜の夕食懇談会の場所へ移動しました。

ここでも横断幕で私たちを迎えてくれたのは、韓国名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する済州道会の方たちです。大韓老人会吾羅洞分会長の梁(ヤン)さん、副会長さん、(済州)平和博物館の館長の李(リー)さん、旅行会社の女性社長の無(ブ)さんなど十数人の方々と、双方の代表者のあいさつのあと、持参したみやげを手渡し、焼き肉を囲んで歓談しました。 各自言葉の問題があって、ここでは、つつこん



懇親会であいさつする許さんと通訳の張さん

(撮影：小林宏子さん)

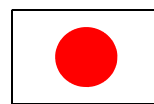
だ懇談はできませんでしたが、老人会の方々は、翌日も私たちのツアーに同行してくれ、連帯旗に署名してくれましたし、李さんは翌日、自ら平和博物館を案内してくれました。

今回の済州島での滞在の準備を中心になってすすめてくれたのは、自らをナポレオンと呼ぶ愉快な校長先生許重雄（ホ・ジュンウン）さんと通訳ガイドの張英愛（チャン・ヨンエ）さんで、済州道訪問の初日と翌日朝食までのすべての施設入館料、花代、食事代、飲み物代、カラオケ代を許さんが負担してくれました。高橋さんの日頃の活動に対する現地の方の感謝の気持ちであることは分かりますが、私たちは、この運動に関して十分な直接的訴訟支援をしておらず、一同恐縮してしまいました。（この分は、日本帰国後、反省会で参加者に返金しました。）

一方で支援会の済州道会の方々は許さんを中心に署名を2万筆集めたそうで、次回は5万筆集めると張り切ってみえました。活動規模の大きさに再度驚きです。



## 二次会はカラオケ大会



ダンス交流となった二次会  
(撮影：小林宏子さん)

夕食懇談会の後には、現地の人の誘いで、カラオケ付きのダンスホールへ連れて行ってくれました。ビールを飲みながら、歌いまくり踊りまくりの楽しいひとときでした。言葉が通じなくても、歌って踊れば、緊張が柔らげ、お互いに親しみがわいてきて、戦争反対！平和万歳！の一致点でスクラム組んでの大騒ぎでした。

さて、今日も長い1日でしたが、私たちの韓国の旅はまだ続きます。次号をぜひ楽しみに。

## 「慰安婦署名」の締め切りは5月20日です。

3月号で配布した「戦時性的強制被害者問題の解決の促進に関する法律案」の早期成立を求める請願署名の提出期限は、岐阜県事務局が5月20日、本部が5月25日です。

## 岐阜県アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

## 2008年度 総会 の予告

4月15日(土)の総会理事会で、本年度の総会を下記の日程で開催することを決めました。**記念講演**は、今年、11月2日(日)に済州道訪問していただく予定の韓国平和憲法草案連帯「**韓国九条の会**」の方々に委ねる準備として、**朝鮮通信使**に関するものを計画しています。詳細は未定ですが、日程が決定したらお知らせします。

とき：6月8日(日)14:00～ 夕食懇談会 17:00～

ところ：未定

会費：無料 懇親会は実費